

陸域観測技術衛星ALOS (だいち) がとらえた北海道洞爺湖周辺 (1)

データ提供：財団法人リモート・センシング技術センター

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

本誌90号から陸域観測技術衛星ALOS (Advanced Land Observing Satellite) から見た「国土の姿」を掲載します。ALOS (日本語名：だいち) は、2006年1月24日に宇宙航空研究開発機構 (JAXA) によって打ち上げられ、地球観測衛星の中では世界最大級の大きさを誇ります。パナクロマチック立体視センサ (PRISM: Panchromatic Remote sensing Instrument for Stereo Mapping)、高性能可視近赤外放射計2型 (AVNIR-2: Advanced Visible and Near Infrared Radiometer type 2)、フェーズドアレイ方式Lバンド合成開口レーダ (PALSAR: Phased Array type L-band Synthetic Aperture Radar) の3種類のセンサが搭載されています。下図は、AVNIR-2が観測した北海道洞爺湖周辺のトゥルーカラー画像 (地上分解能10m) です。植生が分布している箇所は緑色に発色しており、土地被覆の分析精度の向上が期待できます。有珠山の火口、昭和新山、北海道洞爺湖サミット会場の位置、畑や市街地の分布状況等を眺めつつ、さまざまな視点から判読してみてください。

ALOS AVNIR-2 トゥルーカラー合成画像 観測日：2006年10月23日



R : Band 3 G : Band 2 B : Band 1

© JAXA Distribution RESTEC